

芝浦工業大学大学院教授
谷口博昭

あの忌まわしい東日本大震災から早2年が経過しました。産学官挙げての懸命の尽力を持ってしても残念ながら復旧・復興途半ばと言わざるを得ません。今回の震災の甚大さ・複雑さを物語っています。

復興予算は
19兆円から25
兆円に増加さ

れましたが、人手不足、資機材不足が懸念されています。これまで10数年にわたる公共事業削減のため、将来見通しの立たない中でやむを得ず人手と資機材を切り詰め耐えし

のんでござるを得なかった必然とも言うべき結果です。

国土強靱化のしつかりとした見通しを示し、中央と災害現地とのギャップを埋める、或いはコミュニケーション不足を解消しつつ、非常時対応

措置等国力を上げて復旧・復興を成し遂げることが肝要です。幸いに復興庁、東京電力において現地組織の充実が図られました。即断即決による復旧・復興の迅速化、更なる

促進が期待されます。

長年国道6号の維持管理活動を続けてきているNPOハッピーロードネットの「30年後の故郷に贈る『ふくしま浜街道・桜プロジェクト』」のような自主的・自発的な取り

組みに対するしかるべき支援も大切です。災害は忘れた頃にやってきます。日頃からの備え、「櫛の歯作戦」に象徴されるようにいざという時の安全・安心

確保のため、現地の諸事情を熟知している地方整備局等の行政建設機関と、地域建設企業のしかるべき存続が不可欠なのです。

今求められることは、復旧・復興を成し遂げ、経済再生から持続的・本格的な日本再生への軌道に乗せることです。防災・減災、本

格的な維持更新、新しいライフスタイルやグローバル競争等のインフラ需要には、更なる規制緩和による民間の知恵と力と資金の活用、財政のバランスの取れた機動的・弾力的な対応が望まれます。

復興、経済再生から日本再生へ